

第18回国立大学法人北海道教育大学教員養成改革推進外部  
委員会議事録

日 時 平成 30 年 5 月 17 日 (木) 10 : 00 ~ 12 : 00

場 所 札幌駅前サテライト教室 2

議 題

- 1 平成 30 年度点検評価実施要項について
- 2 その他

配付資料

- 1 平成 30 年度における意見のまとめ方 (第 17 回委員会での意見の整理)
- 2 教員養成改革推進外部委員会による点検及び評価実施要項 (平成 30 年度分)
- 3 平成 30 年度教員養成改革推進外部委員会審議等スケジュール

議事録

[事務局より、笹谷委員が欠席である旨の報告及び配付資料の確認並びに事務局出席者の紹介が行われた。]

【議 長】：それでは第 18 回外部委員会のほうを開催したいと思います。議題につきまして、本日は 30 年度点検評価実施要項ということで進めさせていただきたいと思います。まず、資料 1 をご覧いただければと思います。前回、外部委員会のほうで最終的なまとめをどういうふうに進めるかというところで、ご意見をいただいたものですが、意見の目的、位置付け、構成ということで、最終的なまとめの構成をこういう形にして、それぞれどういう趣旨でやるのかを整理したものが資料 1 です。まず、この報告書のまとめ方に当たってのこの意見の目的というのは、こういう趣旨です。で、意見の位置付けというのはこういうものです。意見の構成としては目的、大学の意見への実現状況とこれにかかる評価、評価を踏まえた意見、今後の課題というような構成でどうかというところで作業を進めていきたいと思います。前回の意見を少し整理したものが参考資料として入っております。それを踏まえて作業したということです。少し、お時間を取っていただいて、見ていただきながら、最終的な報告に向けて

こういう作業をしていくということで問題ないだろうかというのを、資料も読みながら少し考えていただければと思います。よろしいですか。その後少し意見交換したいと思います。まず、資料に目通しいただければと思います。

〔委員において資料1の確認を行う〕

【議長】：資料1について、よろしいですか。意見の目的・趣旨としましては、どういうことを目指しているのかということについてですけれども、前回言いましたが、大学のほうでもともと、実践的な教員養成、それだけじゃなくて、教職の採用率を上げるということも考えていると。そういったところを目指して実現状況を具体的に検証し、われわれとしてそういった観点から意見を述べていくという目的。また、現職研修、こういった現職の先生方への研修への参画については教育委員会等、学校現場と連携して、現代的な課題というのをちゃんと踏まえながらしっかりとやってほしいということですが、それに当たって先生はこういうふうに行っているということではなくて、組織的にやってほしいという観点で意見を述べていく。また、そういったことをやる上で前提となることですが、当然北海道の教育の現状というのを十分認識した上でしっかりとやっていただくことを確認しながら、課題を提示していくという形で意見を述べていきたいということです。位置付けにつきましては、当然ですが、参考にとということではなくて、これをまさに聞いていただいて、やっていただくことが大学としての実践的教員養成に非常に結びつくものでもあるし、大学の掲げられているミッションというものに対しても十分に寄与するものであるという認識に立って意見をまとめていく。なので、大学としてもしっかりと受け止めていただいて、しっかりと改革を進めてほしいという位置付け。また、最後意見の構成といたしましては、資料2でもまた出てきますけれども、今のようない意見の目的、それに対して、これまで述べさせていただいている意見に対しての実現状況、こういったものを現状どういうふうに取り組みされているかの評価、さらにその評価に対しての意見、それを踏まえた上での今後の課題という形の構成にしていく。そういった構成としながら報告書をまとめていきたいという流れです。大体よろしいですか。例えば記述でもう少しこういう観点があればいいとかあれば、追記しますけれども。今のところで大体網羅されているかなと考えております。特になければ、次、実際の今後の点検作業のお話、より実務的なお話のほうに移りたいと思います。それでは資料2のほうに行きたいと思います。では事務局のほうから資料2の説明をお願いします。

【事務局】：それでは、先ほど資料1のご確認をいただいたので、その点を踏まえまして、資料2、点検評価の実施要項のほうに、その要素をどのように含ませたかということを含めまして、資料の説明をさせていただきます。まず、資料2とありますはじめの文章は、学長へ本委員会の委員長からの評価の実施の依頼

文ということになっております。下線を引いてある部分が通常この文章の依頼文の中に含まれていない箇所です。今回この資料 1 にあります点を踏まえまして記述しております。今回のこの件につきましては、下線の「委員会は」という所につきましては、この意見の位置付けということを盛り込んでおります。このような考えで今回点検評価をする、最終の評価をするということをご連絡するというので考えました。3 枚目、評価の基準ということにつきましては、「平成 27 年度から平成 29 年度に実施した点検評価に示した観点と意見についての実現状況とします」ということです。それから「要請 B」については、平成 27 年度から 29 年度に実施した点検評価に示した観点と意見についての実現状況を含めた、今後の意図的、組織的取り組み状況とするということとしました。この「要請 B」は少し分かりづらい点があるかと思えますけれども、27、28、29 年度、それぞれ観点到した点が少し異なっております。27、28 の点検を踏まえて、29 年度では具体的な研究とか取り組みといったところに着眼するのではなくて、マネジメントという観点で点検評価を実施してまいりました。「要請 A」のように個々の部分について意見を言ったのでは、大きなまとまりにできないのではないかとということで、最終的なまとめは 29 年度に実施した観点到非常に近づくわけですが、全体的なことを通して大学に問うて、組織的取り組みの状況ということでご回答いただくということになります。少しそのニュアンスが変わっております。あとは点検評価のシートのほうで少し補足説明させていただきます。点検事項と方法ですが、前回ご説明した内容から少し変えています。大学のほうで少し実施要項の内容について検討いたしまして、提出の方法を変更する必要があるのではないかと意見がありまして、ここを見直しております。どのように見直したかということ、まず、点検シートにつきましては、このシートの下に付いていますが、A3 判の点検シートと A4 判の点検シート、2 種類で構成されていますけれども、このシートにつきましては平成 29 年度分実施の観点等については、まだ現段階で大学側の本委員会の意見への対応というものが出来上がっておりませんので、大学側としてもこの点検シートの様式で記入するということはなかなか困難であろうということから、このシートにつきましては、27、28 年度に実施した委員会の意見への対応の実現状況ということについて作成していきたい。それから、29 年度につきましては、このシートではなくて、これまで大学が提出している、例で申し上げるとこちらの資料に付いています施策対応区分資料にあるように、平成 29 年度の意見に対しての対応として本学がまとめた案をお示しして、その 2 つの形を元に評価をしていただけないかということです。前回と変えたところはその点です。それから意見のまとめにつきましては、先ほどの資料に戻りまして、5 番の所にありますように、「要請 A」については、実現状況とそれにかかる分析結果および全体を通した改善を要する評価、意見という形にまとめていただくということです。「要請 B」につきましては、実現状況並びにこれを含めた今後の意図的、組織

的取り組み状況にかかる分析結果および改善を要する点にまとめるということです。それから5の2の所に先ほどの資料1でありましたように、北海道の教育の現状を踏まえたものになっているかについても触れて、今後の課題を整理するというをここに明示しています。第6は授業の視察で、これは点検に当たって随時実施するという事です。スケジュールについては、その下にありますように、本日の審議の後、大学のほうに点検シートの作成の依頼をいたします。それに合わせて授業視察やヒアリングの開始を随時実施してまいります。9月28日をもって点検シートの回収。当然先ほどありましたように大学側からの29年度の本委員会の意見への対応についても回収されます。それを受けまして、委員会としましてはこの点検シートの点検を始めまして、意見のまとめを開始していくということです。10月中旬に学長との意見交換ということで、29年度の本委員会の意見への対応についても含めて、意見交換をしていただいて、12月28日に意見の提出を行うという予定で大学に示していきたいということです。その下の資料は記入例ですので、こちらについては説明を省略させていただいて、点検シートについて説明します。まず、記入例1の点検シートにつきましては、27年度と28年度の外部委員会の意見への対応の実現状況について示していただくということで、作成時点での取り組み状況を二重丸、三角、バツで評価していただくということです。これの記入の元になる根拠が記入例2の資料になります。このシートの内容が記入例1の三角、丸につながっていくということです。記入例2の「要請A」について、資料1の意見の目的の中に書いてありますが、最初のポツに「教員養成における実現状況を具体的に検証し」ということで、点検するに当たって、委員の皆様が分かりやすいように、その到達している内容が抽象的ではなくて、具体的に確認できるようにしたいというご意見がありましたので、その工夫としまして、この記入例の赤字の所、特に学びの系統に関しては、授業科目と履修順序とその内容について、分かりやすく説明してくださいということを注釈として加えております。前回の意見を踏まえて、このような工夫をさせていただきました。「要請B」につきましては、赤字で、28年度の点検シートに、27から29年度の実現状況も踏まえて、総括し記載していただくこととなります。29年度については、まだ具体的な実現状況がありませんけれども、それも含めて意図的な、組織的な取り組みがどうなっていますかということはこのシートの中にまとめて記載していただくことにさせていただきたいと思っています。それから記入例につきまして、対応施策区分資料ですが、これにつきましては大学のほうでこのように27年度と28年度の委員会の意見への対応に施策区分を振っていただいて、提出していただくこととなります。実施要項についての説明は以上です。

【議長】：ありがとうございます。今、具体的な点検評価の実施に関する作業のことで、要項を元にお話しいただきました。今年度につきましては、27、28、29の対応状況ということで聞こうとは思っていたんですが、29の所は3月

に出したばかり、当然検討中ということにしかないので、それは別の、従来どおりの形で書いてもらうことにして、とりあえず27、28については前回ご議論いただいたとおり、現在のところの実現状況ということでチェックしていただいて、29年度の評価については従来のような。昨年も12月にご報告いただきましたけど、こういう形の資料でご報告をいただいて、それでこの2つで出てきたエビデンスを元に、最終的な報告を資料1のようなまとめ方に沿って進めていく、大枠はそういう話になります。27、28年の点検の仕方については、大体前回も話をして、いちいち細かく見ていって、これでこういう形でも補足をして、詳しいものが分かるような形で見えていくということでお話をさせていただいた。記入例2のようなものを別途用意してもらって、そういう形で対比しながらここにいちいちある丸、三角、バツというのが、本当にそうなのというのをいちいち見ていく。少し細かい作業ですが、していくというところで、特に変更はありません。29についてはこちらの形で作成するという事なので、話としてはおおむね前回どおりかという感じはします。少し先に確認しておきたいのですが、29の出した評価のまとめ方というのは、一応これまで出した、27、28でそれぞれ点検評価をお願いしたこのフォーマットに沿ってまとめるということですか。

【事務局】：29年度は、こういう区分を付しては出ませんので、こういうことをしますという。

【議長】：別紙で少し整理しますというだけですか。

【事務局】：まさに本文のままでお出ししますよというお話です。

【議長】：なるほど、分かりました。いちいち点検チェックでこうやって出さないということですね。

【事務局】：そうです。結局、対応状況を書くことができないので、まさにこれからこういうことをするという内容しかないということなので、その表は作成できないのではないだろうかということなんです。

【議長】：分かりました。ということで、若干その対応状況が、確認の手間が増えるのですけれども、大体今のとおりの進め方で問題ないですかね。もし、何かちょっと気になる点とか、確認しておきたい点とか、気になる点等ございましたらご意見いただければと思います。まとめ方の要領は大体、去年も経験されていますので、何となく作業としては分かるかなという感じはしますけれども。ちょっとお聞きしたいのですけれども、やっぱりこれに沿ってぱっとやったときに、結構作業というか、抽象的になって分かりづらいとか、こういう形で示して、こうやれば大体作業としては回答できるかなとか、その辺りの感覚はどうですか。

【事務局】：この作業自体は今の予定ではこの4月に大学戦略本部を作りまして、教育改革チームというのをその中に作っています。その構成メンバーに分担して、その作業の点検をやる形でスケジュールを間に合わせるように対応したい

と思います。恐らくこの記入例の 2 のほうのシートを作っていくと必然的にこの丸か三角かバツかというのが作れるじゃないかと。最初に三角とか丸とかつていう形ではなくて、これを作っていく作業の中で、これは丸かなとか、三角かなという具合に多分なっていくと思いますので、基本的には作業としては、この記入例の 2 をまず作っていくという形の作業になっていくのかなと思っています。それからあと、対応施策のところ、今回、例ということで、27 年度の方で、今のところ準拠中の段階のたたき台といいますか、案としてお示ししています。同様のものを 28 年度も早急に作って、今回ここで決定するという形ではなくて、先程の教育改革チームで、対応施策のところをオーソライズさせていただいた上で作業に入ろうかという形になっています。

【議 長】：分かりました。これをやっているときにちょっと気になるのは、例えば数字的なものが分かるものを出してみたいな話になると思うんですけど、出せるもの、出せないもの。取っていないものは。

【事務局】：その中身にもよると思います。

【議 長】：可能な限り、客観的に指標として適切なものとしては、出せるものは出しますというスタンスで。

【事務局】：そこまでは書いてないですけど、とりあえず分かりやすくということとを前面に出したいとは思っています。

【議 長】：そうですね。大学の自己点検評価を第三者評価する際、大学が自己評価してきたところは、「どう見積もってもその自己評価は甘くないですか」ということで、指摘して直すこととか、「これは意外とできているんじゃないですか」と言って評価するということは往々にしてありえるかと思しますので、そういう意味では出てきたもので、しっかり見ていただくということかなというふうに思います。エビデンスについても前回のご意見でもう少し。多分アウトプットのものは大学もあると思うのですが、例えばアウトカムのもの。究極的に分かりやすく言うと、例えば教員採用率が 75% という形とか、そういうものがアウトカムのものになるでしょうけど、そういったところの指標で、例えば教育効果で何か分かるものがあつたらという話もあつたわけですけど、そこも多分出せるもの、出せないものというのがあるので。なるべく大学としてこれだと思うのは出してもらいつつ、「こういうのはないですか」というのは、その都度確認してもいいのかなというふうには思いますので、そういう形でのよろしいですかね。

【事務局】：はい。

【議 長】：そういったところで、ちょっと作業をお願いして。大学にとっては大変な作業になるかと思しますので、ご意見がなければ、今日の日付にして、それで少し時間的ゆとりを見てやっていただくという形をお願いしたいと思います。それで、よろしいですか。

【事務局】：はい。

【議 長】：ではスケジュールで、資料3ということで、ちょっと見ていただければと思います。一応今年度のスケジュールということで、前回17日やっていただいて、今日、外部委員会の実施要項ということで、ご議論をいただきました。今日で決定できないようであれば7月を考えていたのですけれども、今の形でいいということであればもうそれで。あと、軽微な変更とか、若干の修正等あれば、ご意見いただければと思いますが、一応今日付でまとめて大学のほうに点検の依頼を、少し2カ月ほど早めてやりたいと思います。その後の。7月中旬の会議はもうなしということで考えております。また、釧路校の視察というの、今回の点検のところをまとめるのに当たって、必要にもなってきますので、授業視察ということで今年度は行かせていただこうと思っております。今年度のスケジュールについて、今のところで修正等が入るので、その点を補足していただければと思います。

【事務局】：はい。今、委員長のほうからお話がありましたように、今日の日付で実施要項をお認めいただいたということで、7月の19回の委員会はなしということになります。それで、10月中旬が19回ということで、回を1回ずつ繰り下げていただければと思います。それから点検依頼については今日の日付になりますので、5月17日ということで決定ということになります。

【議 長】：あとは、日付はこのとおりということで、12月末日まとめるということでは変わらないという、そういうスケジュール感でよろしいですね。

【事務局】：そこは今のところ、変更は考えておりません。あと、17日の実施要項(案)とありましたけど、通りましたので、案は削除させていただきたいと思っております。資料の修正をしまして、メールで送らせていただきます。

【議 長】：スケジュールについては以上のとおりで、点検だけが早まるというところで、後の回は大体こういう形でやらせていただきたいというふうに思っております。授業視察は釧路校と、札幌校を10月ごろに。他大学ということで、地域との連携といったところで、いろいろやっていらっしゃる大学があることが分かったので、大学が組織としてやっていくという辺りの参考になるのではないかなということで、少し見られればというふうに考えております。

【委 員】：いつぐらいの予定になりますか。今回の釧路校も出張等とかぶったりしているものですから。

【議 長】：もし、分かっているらっしゃる、公式行事とかあれば、皆さんのこのときは確実に無理だということがあれば。事務局にメールで送っていただく形でよろしいですか。

【事務局】：今の話は、他大学視察に関わって、10月下旬の日程について、委員の皆さんからご連絡いただけるということでよろしいですか。お願いいたします。

【議 長】：スケジュールは以上で、他に事務局のほうから特に補足とかはないですか。

【事務局】：1点だけ、スケジュールで補足ですけど、10月中旬、次回の会議は、29年度は、点検シートは作らないということですけど、委員会の意見への対応は作りますので、この場でまた、学長に来てもらって、29年度の本学の対応に関するとりまとめをする。もう一つは、27、28も含めた、3年分の報告に対する意見のまとめをする。ということになるかと思しますので、今年度については、例年と違って、平成29年度の委員会の意見への対応に関する仕事と3年分まとめた仕事と両方をお願いする形になりますので、タイトな形で作業とか議論していただく内容が増えると思いますけれど、どうぞよろしくお願ひしますということを申し上げさせていただければと思います。

【議長】：はい、分かりました。では、補足事項としては以上のとおりです。それでは、今日は、これで終わりたいと思います。ご協力ありがとうございました。